



Mapping OPALE for IBM i



Mapping Suite OPALE

更新ガイド

第 2 版



● このガイドの目的と使い方

このガイドは、既に導入されている Mapping Suite OPALÉ(オパール)から、新しいリリース版に更新するための手順を記載しています。

既存システム上の Mapping Suite のバージョンが、V6 や V7 の場合の Mapping Suite OPALÉ への移行手順については、「Mapping Suite V6/V7 から Mapping Suite OPALÉ への移行ガイド」をご参照ください。

また、Mapping Suite OPALÉ の導入や使用方法については、「Mapping Suite OPALÉ 導入・利用ガイド」をご参照ください。

● このガイドが想定している読者

このガイドは、Mapping Suite OPALÉ の更新に携わるシステム技術者の方を読者として想定しています。そのため、読者は Mapping Suite OPALÉ に関わるスキルや、IBM i(OS/400)に関わる一定程度のスキルを保有されていることが必要です。

● 目次

第1章 作業を開始するための条件を確認する.....	3
第2章 事前準備を行う.....	3
第3章 Mapping Suite を停止して上書きインストール作業を行う.....	4
第4章 M-Designer を更新する.....	8
変更の履歴.....	9



第 1 章 作業を開始するための条件を確認する

初めに以下の条件と注意点を確認します。

1. 作業中は、既存システム上の Mapping Suite を止めますが、所要時間はおよそ 30 分です。
2. 作業時に使用するユーザーID は、“QSECOFR” 等の *SECOFR 権限が必須です。
3. ライブラリ“MAP400”がロックされている場合には、ロックの解除が必要です。ロックの解除にはシステムの再起動が必要になります。
4. ジョブの CCSID は “5035” を指定します。
5. 5250 端末を使った操作や、インストール用プログラムのファイルを FTP 送信するための FTP 送信が可能な PC を、既存システムと接続して使用します。
6. システムのディスクの空き容量には、2GB 必要です。

第 2 章 事前準備を行う

- 導入済みの Mapping Suite OPALE に対して、新しいリリースの Mapping Suite OPALE を、以下の手順に従って上書きインストールします。
- 万が一、上書きインストールに問題が発生した場合に、元の状態に戻すことができるように、予め既存の Mapping Suite OPALE を別のライブラリ名で複製しておきます。
- システム上の Mapping Suite OPALE のリリースに合わせて、PC 上の M-Designer も同じリリースのものに更新します。

1. 5250 画面セッションの、「通信」→「構成」を選択して表示される画面で、下のように、“画面サイズ”に「27x132」、「ホスト・コード・ページ」に「939」または「1399」を指定して、既存システムと接続します。

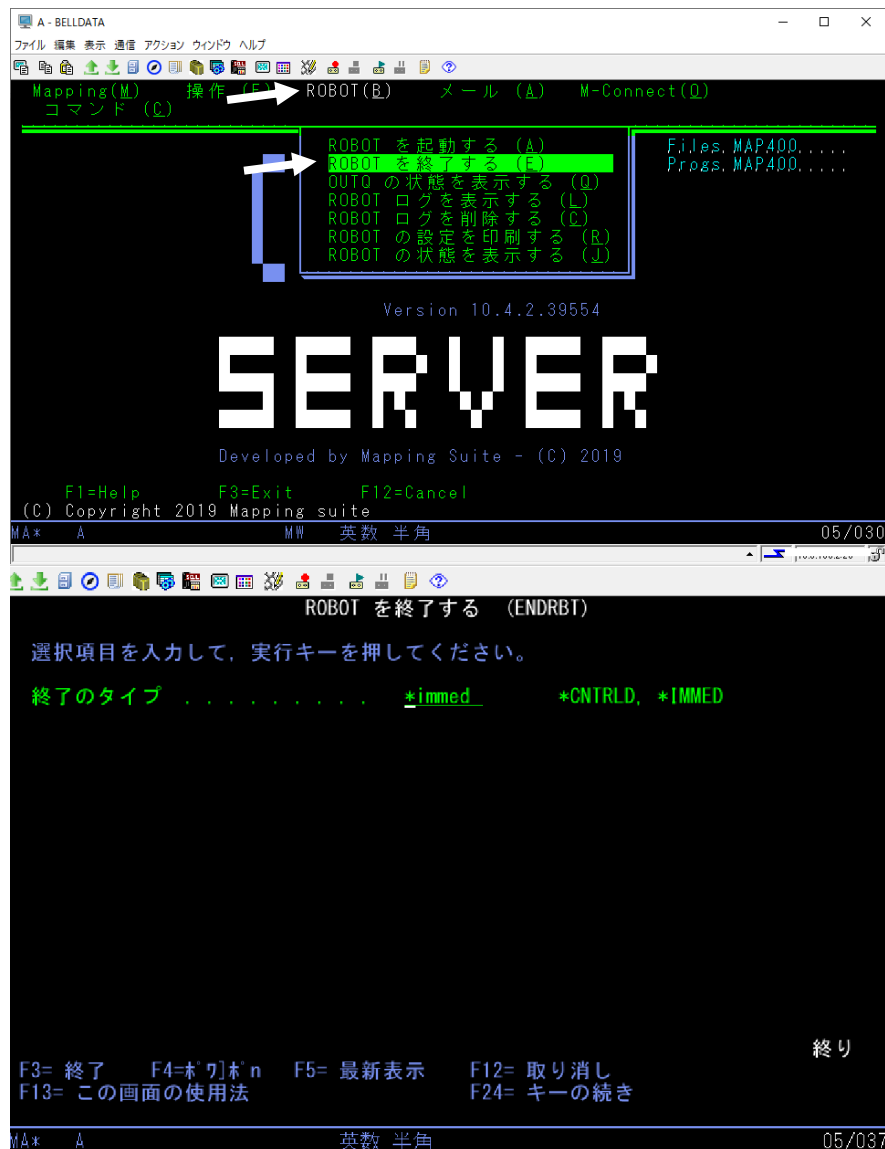
<IBM ACS の画面例>



2. “QSECOFR”等の *SECOFR 権限を持つユーザー ID でログインします。
3. 下記のコマンドを実行して、ジョブの CCSID を”5035”に設定します。
CHGJOB CCSID(5035)
4. 次のコマンドを実行し、インストール用プログラムの受け皿となる保管ファイルを作成します。
CRTSAVF FILE(QGPL/Mxxxxx)
 - ・ ライブラリ名”QGPL”は任意です。
 - ・ ファイル名”Mxxxxx”は、この後、PC からシステムに転送するインストール用プログラムのファイル名です。
5. 新しいリリースのインストール用プログラムファイルを解凍して、PC の C ドライブ下のフォルダー(例：C:\TEMP\M40850)に保管します。
6. PC のコマンドプロンプトを起動した後、次のコマンドを実行してインストール用のプログラムファイルを保管したフォルダーに移動します。
例：CD C:\TEMP
7. 次のコマンドを続けて実行して、インストール用プログラム(Mxxxxx)を、“4”で作成したシステムの保管ファイルに FTP 送信します。
FTP IP アドレス(IP アドレスはシステムの IP アドレスです。)
ユーザーID の入力 (システムを使用する際のユーザーID です。)
パスワードの入力 (そのパスワードです。画面には表示されません。)
CD QGPL (手順 5 で指定したライブラリ名です。)
BIN
PUT Mxxxxx
8. 転送が完了すると、送信されたバイト数が表示されます。次のコマンドを実行して画面を閉じます。
BYE
EXIT

第 3 章 Mapping Suite を停止して上書きインストール作業を行う

1. 5250 端末画面のコマンドラインから、“MAPPING”を実行した後、1 回実行キー押して Mapping メニュー画面を表示します。
2. “ROBOT” → “ROBOT を終了する”を選択して実行し、表示された画面の”End タイプ”を”*IMMED”に変更して実行します。

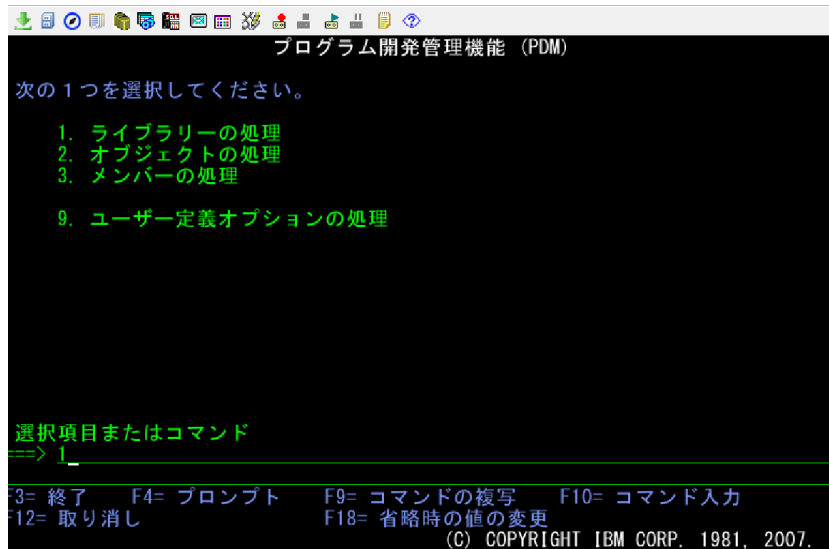


3. コマンドラインから次のコマンドを実行し、"MAPSROBOT" が停止していること(サブシステム "MAPSROBOT"が表示されないこと)を確認します。

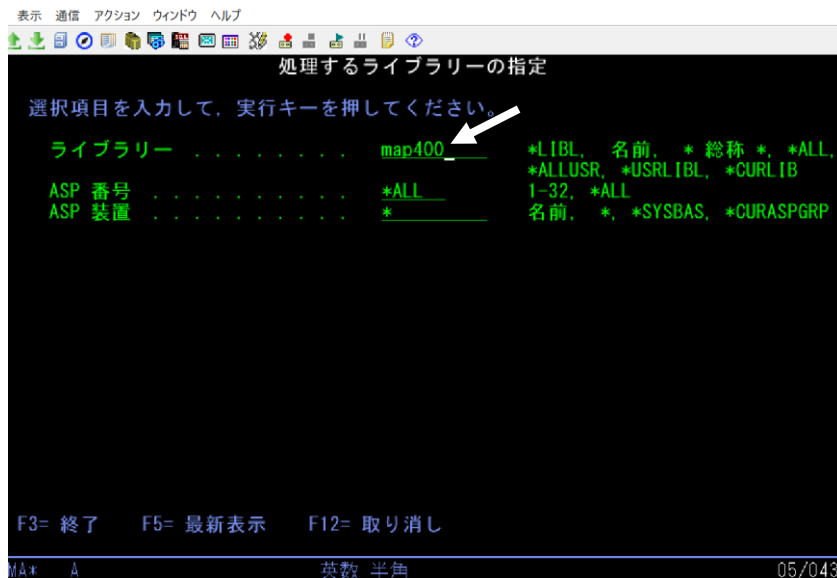
WRKACTJOB

4. F3 キーを押して、Mapping メニュー画面を閉じます。
5. コマンドラインから "STRPDM" を実行します。
6. 表示された画面で、"1.ライブラリーの処理"を選択して実行します。

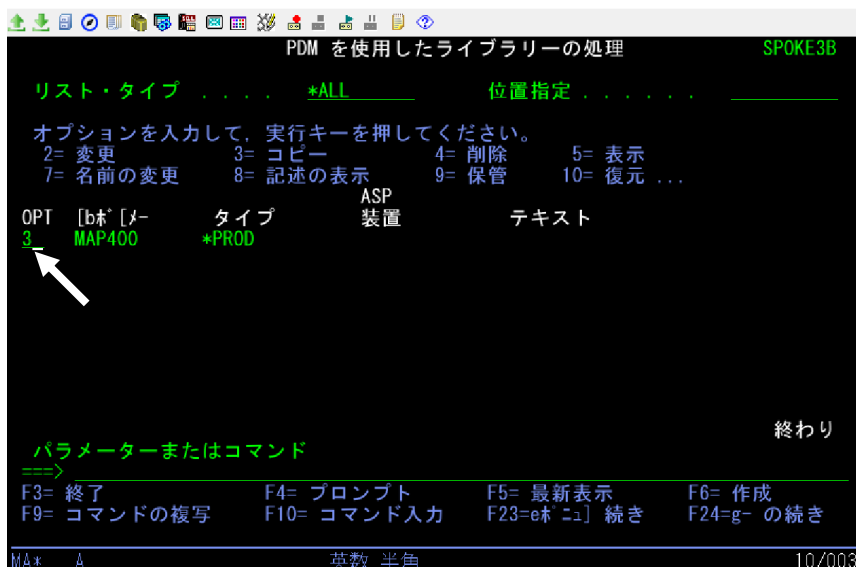
注) ライブラリ "MAP400" がロックされていると、以下のコピー操作を行えません。コピー操作を行えなかった場合には、ロックを解除してください。(ロックの解除を有効化するには、システムの再起動が必要になります。)



7. 表示された画面で、“ライブラリ”に “MAP400” を指定して実行します。



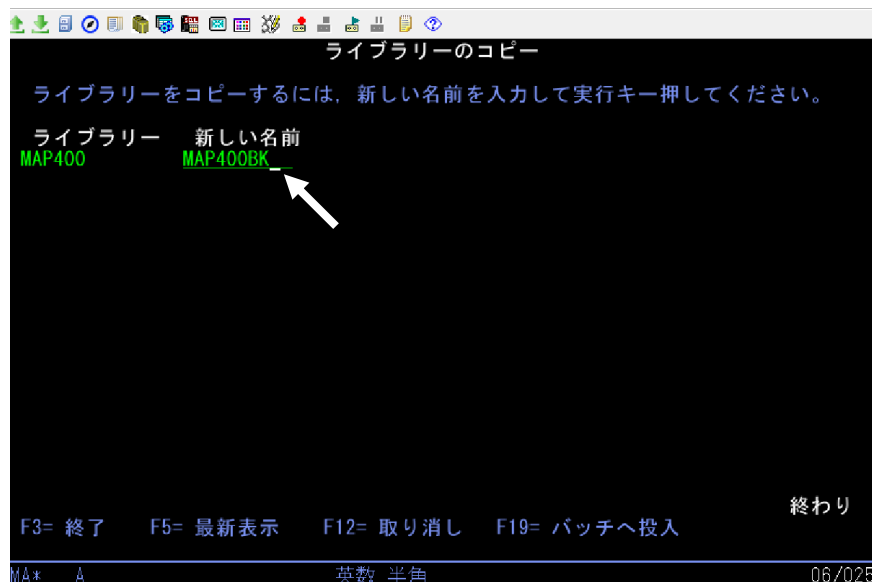
8. “MAP400” に対して “3= コピー” を指定して実行します。





9. 表示された画面で、“新しい名前” 欄に “MAP400BK” を指定して実行します。

注) 名前は任意です。



10. 『Mapping Suite OPale_導入・利用ガイド』を参照して、新しいリリースの Mapping Suite OPale を、インストール先のライブラリ名を“MAP400”と指定して、“MAP400”にインストールします。

注1) IFS 上のフォルダーの指定は、既存の“MAP400BK”のものが表示されますので、そのまま使用します。

注2) 途中のライセンス・キーを入力する画面では、導入済みのライセンス・キーを使用するため、“F3= 終了”を実行するのみとします。

11. インストール完了後に、メニュー画面中央に表示される Mapping Suite OPale のバージョン名が変わったことによって、リリースアップされたことを確認します。

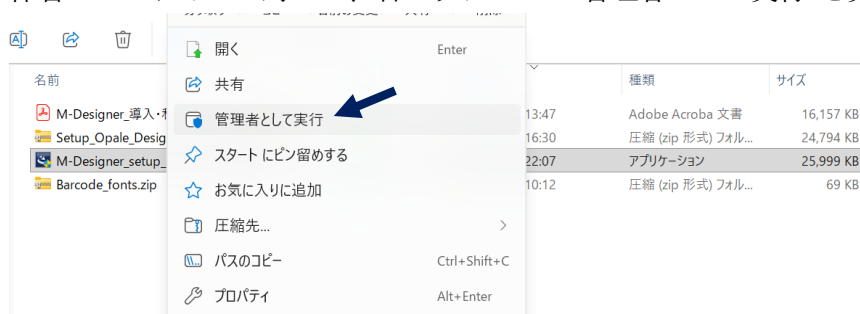


12. ROBOT を起動して、稼働確認テストを行います。

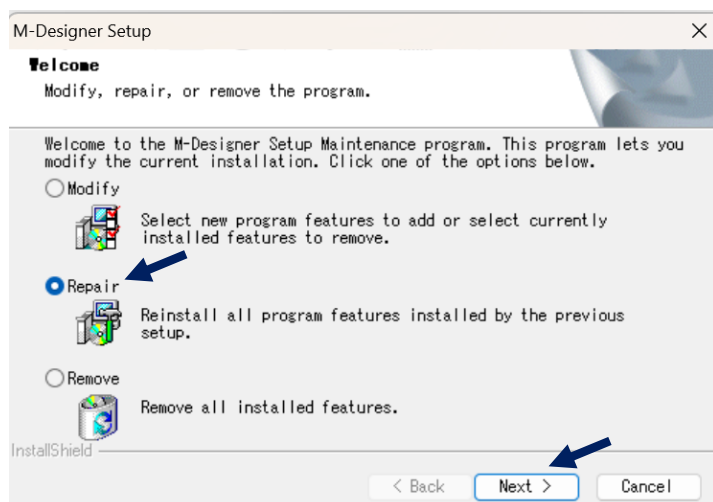


第 4 章 M-Designer を更新する

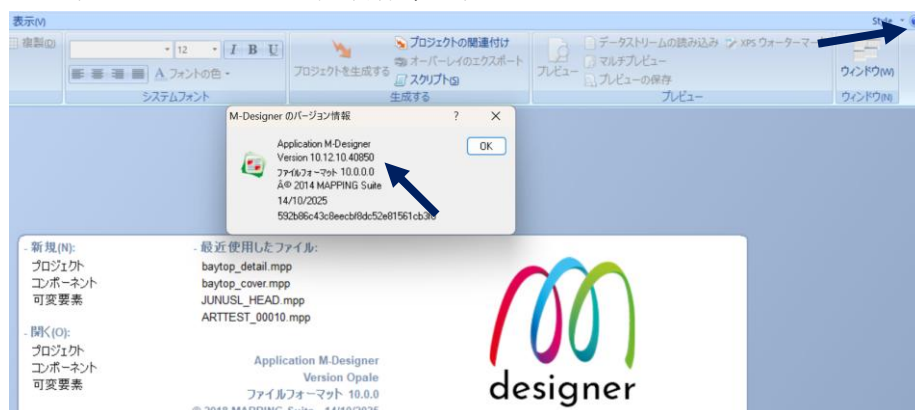
- システム上の Mapping Suite OPALE のリリースに合わせて、PC 上の M-Designer も更新します。そのために、M-Designer も最新リリースのインストール・プログラムを使用して、上書きインストールを行います。
 - 上書きインストールのため、共有フォルダー等の設定は、そのまま引き継がれます。
- M-Designer のインストール・プログラムを PC 上に保管して解凍します。
 - 保管したファイルに対して、右クリックして”管理者として実行”を実行します。



- その後、”Repair”(更新)が選択された状態となった、次のような画面が表示されます。”Next”ボタンを押します。



- インストールが終了したら、M-Designer を起動し、右上隅にある ? マークをクリックしてバージョンを確認します。以上で更新作業は終了です。





変更の履歴

- 第 1 版 : 初版
- 第 2 版
- 作業内容を、稼働中の Mapping Suite OPALE を最新リリースに更新するためのものに絞って、大幅に改訂しました。